資料編

参考文献

・富山町史
・富浦町史
・三芳村史
・和田町史
・丸山町史
・千倉町史
・白浜町史
・ふるさと富山　とみやま「わが町歴史あれこれ」総集編
・房総山岳志　内田栄一著　崙書房出版
・房総のやまあるき　内田栄一著
・南房総自然ガイト　パート１改訂版　うらべ書房
・花嫁街道と抱湖園　山井廣
・大房岬自然公園　　山井廣
・鋸山と富山　　藤平量郎
・富山の植物　川名興　冬虫夏草４４号　2005 安房生物愛好会
・高塚山と周辺の植物　諏訪文二　冬虫夏草４４号 2005 安房生物愛好会
・伏姫籠穴遊歩道の植物・川名興　冬虫夏草４5 号　2006 安房生物愛好会
・川崎一　富山周辺の植物調査資料 2004～2007
・川崎一　伊予ケ岳周辺の植物調査資料 2004～2007
・川崎一　御殿山周辺の植物調査資料 2004～2007
・川崎一　宮田山の植物調査資料　2007/1/18-19
・川崎一　大台山の植物調査資料　2007/1/25
・川崎一　木の根峠の植物調査資料　2006-2007
・川崎一　経塚山の植物調査資料　2005-2006
・川崎一　高塚山周辺の植物調査資料　2006
・川崎一　金比羅山の植物調査資料　2006
・村の滝　川崎一著
・三芳大辞典
・ふるさと探訪三芳村
・三芳村の文化財
・安房生物愛好会 2006.　１２月例会資料
・あわがいど①　戦争遺跡　NPO 法人南房総文化財
・館山市中央公民館　鎮守の森植物調査　川崎一　熊野神社

・富山町文化財マップ

エコツーリズムに関するアンケート調査

1) アンケート調査

このアンケートは、南房総市においてエコツーリズムの推進を図り、エコツアーの取り組みや情報発信を行うための基礎資料とするものである。

サンプルは、富山にハイキングに訪れ、岩井案内人の会にガイドを依頼した方を対象に、環境の保全と観光を両立するエコツーリズムについて、下記について伺った。(109名)

――アンケートのお願い――

南房総市では、環境の保全と観光を両立するエコツーリズムの推進を図り、エコツアーの取り組みや情報発信を行うため、下記のアンケートにご協力下さいますようお願いします。

１．年代　（　　）　　性別　　男・女

２．どちらにお住まいですか。（いずれかに○を付けてください。）

東京都　　神奈川県　　埼玉県　　茨城県　　千葉県　　その他（　　）

３．エコツーリズムという言葉をご存知ですか

１　よく知っている

２　言葉は聞いたことがある

３　知らない

４．環境保全に関心がありますか

１　ある

２　ない

３　どちらともいえない

５．これまでにエコツアーに参加したことがありますか

１　ある

２　ない

３　よくわからない

６．上の５で「参加したことがある」とお答えになった方へ
どのようなエコツアーに参加したことがありますか。（複数回答可）

１　自然体験型エコツアー　　（自然環境、野生動植物等）
２　農林業体験型エコツアー　　（農業、林業、畜産業等）
３　漁業体験型エコツアー　　（漁業、水産業等）
４　歴史文化体験型エコツアー　（文化財、先史遺跡、伝統産業等）
５　郷土料理体験型エコツアー　（食文化等
６　その他（具体的に：　　）

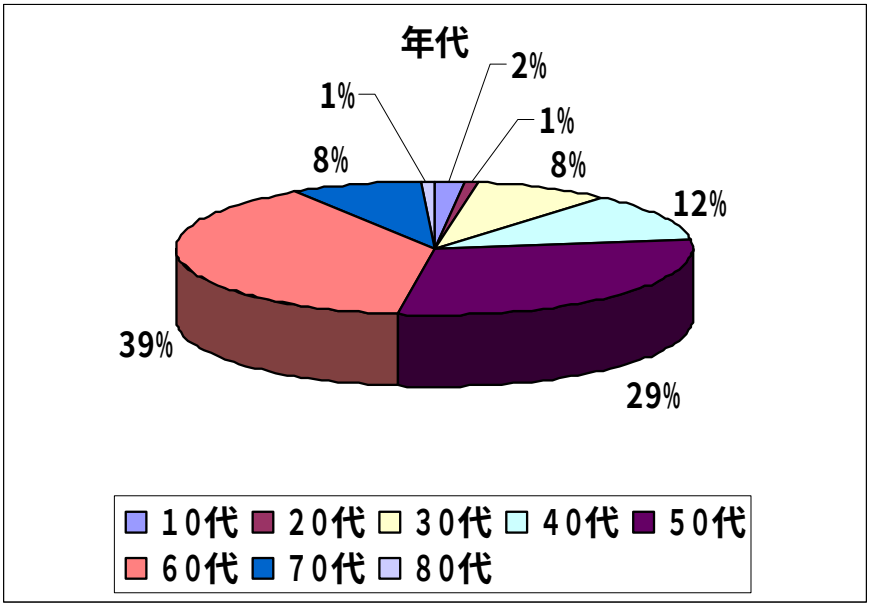
７．参加したエコツアーの都道府県を記入してください。
（　　）

８．南房総市で今後エコツアーを実施する場合どのようなツアーに参加したいですか。
（複数回答可）

１　自然体験型エコツアー　　（自然環境、野生動植物等）
２　農林業体験型エコツアー　　（農業、林業、畜産業等）
３　漁業体験型エコツアー　　（漁業、水産業等）
４　歴史文化体験型エコツアー　（文化財、先史遺跡、伝統産業等）
５　郷土料理体験型エコツアー　（食文化等
６　その他（具体的に：　　）

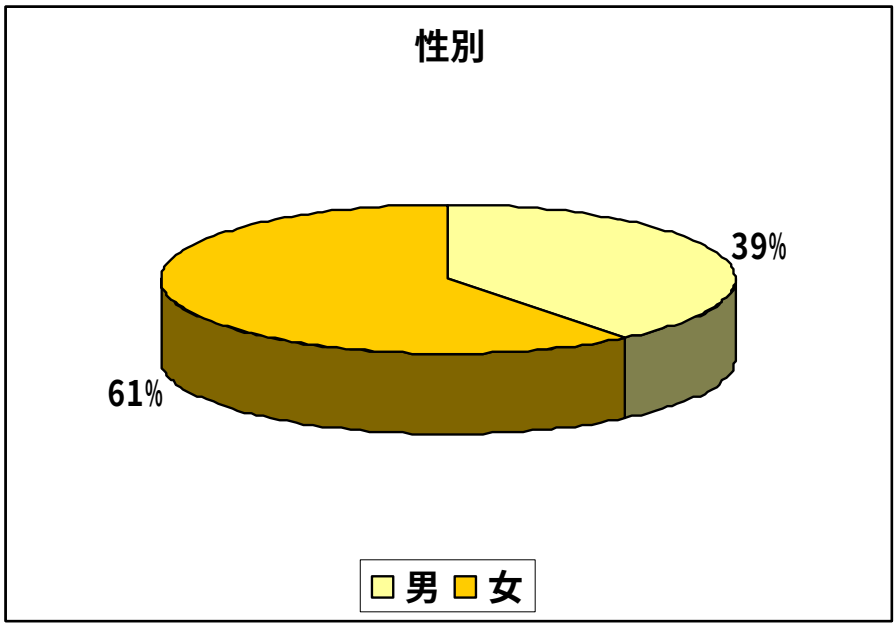
９．ご意見やアドバイスがあれば、なんでもお書きください。
（　　）

参加者に年代を伺ったところ、割合については、下記のとおりとなった。



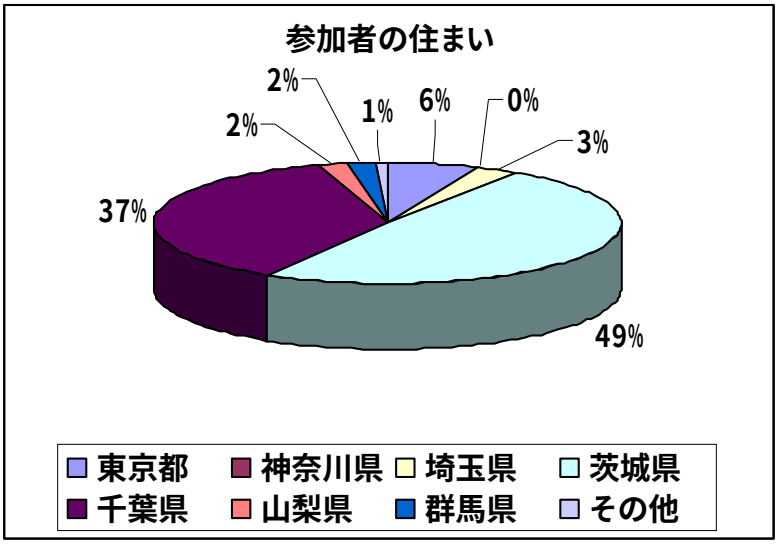
６０代が最も多く、３９％、ついで５０代の２９％と続いており、構成としては、団塊の世代を中心とした構成となった。

性別の割合については、下記のとおりとなった。



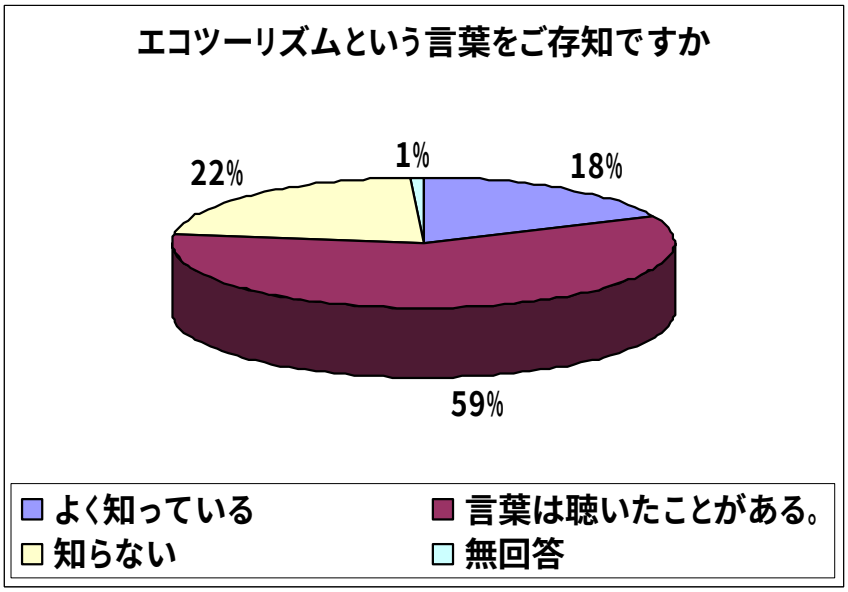
男性 39 パーセント、女性 61 パーセントの割合だった。

今後の情報発信先の参考として、参加者がお住まいの県を伺ったところ下記のとおりとなった。



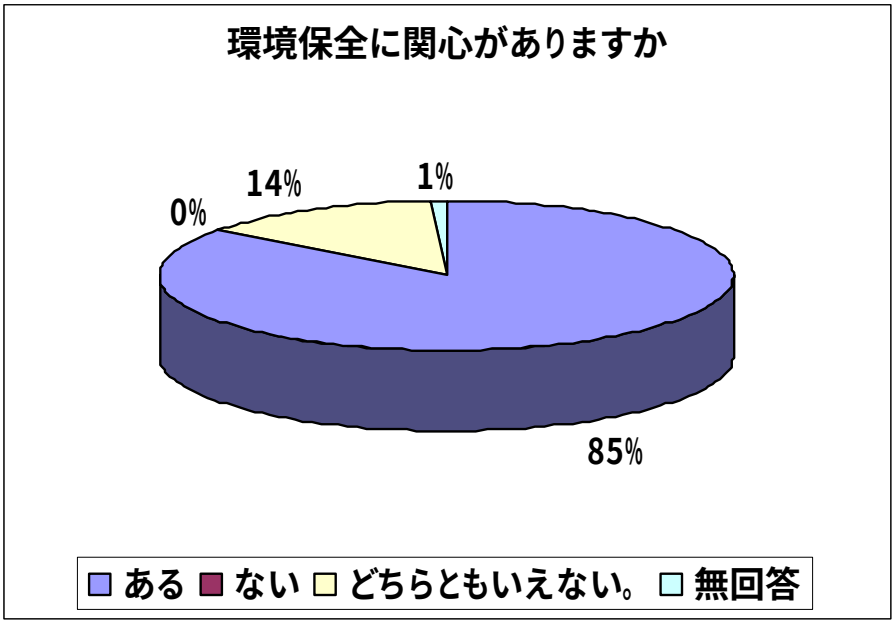
全体としては、関東近郊からの参加者で占められている。茨城県からの団体による参加者があったため、49%と一段と高い割合となっている。次いで、県北からの参加者が 37%となっている。身近な自然を感じることができるドライブコースとしての位置づけであることが伺える。

エコツーリズムという言葉を存じているか伺ったところ、下記のとおりとなった。



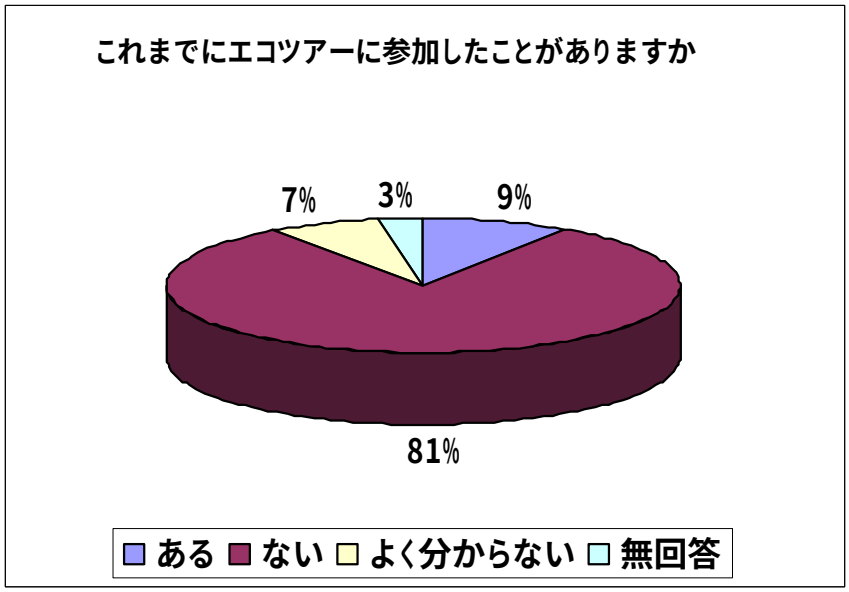
よく知っている、言葉は聴いたことがあるの項目で、77%と高い割合を占めており、エコツーリズムに関する関心の高さが伺えた。

環境の保全に関心があるか伺ったところ、下記のようになった。



環境保全に関心があるが８５％と高い割合を占めており、さらに環境保全に関心がないは、0%で、環境保全に対する高い関心が伺えた。

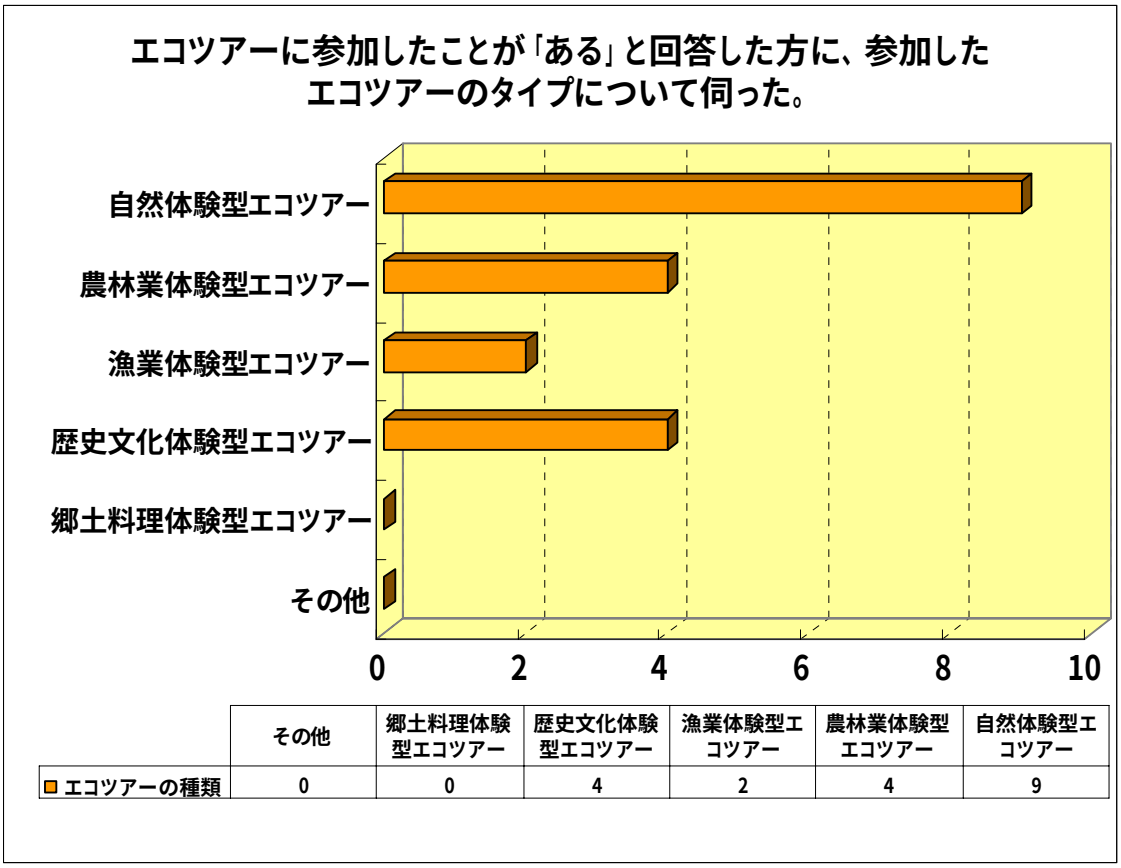
これまで、エコツアーに参加したことがあるか伺ったところ、下記のとおりとなった。



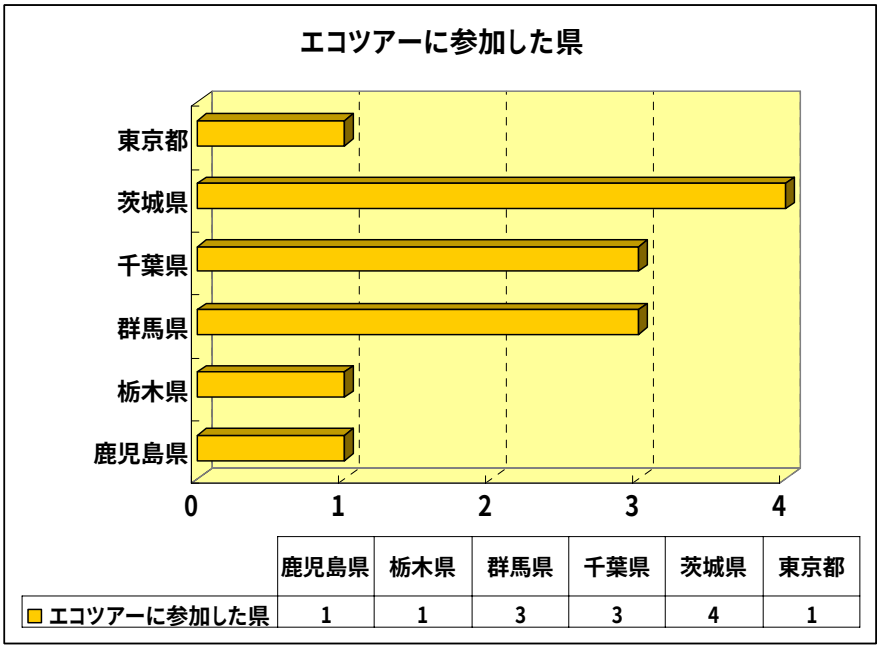
エコツアーに参加したことがあると回答したのは、僅か 9%で、参加したことがないが 81%と高い割合となった。エコツーリズムや環境保全への高い関心とは逆にその

取り組みであるエコツアーへの参加行動への関心は低いことが伺えた。

エコツアーに参加したことがあると回答した方に、どのようなタイプのエコツアーに参加し、その参加したエコツアーが開催した都道府県について、伺ったところ下記のとおりとなった。

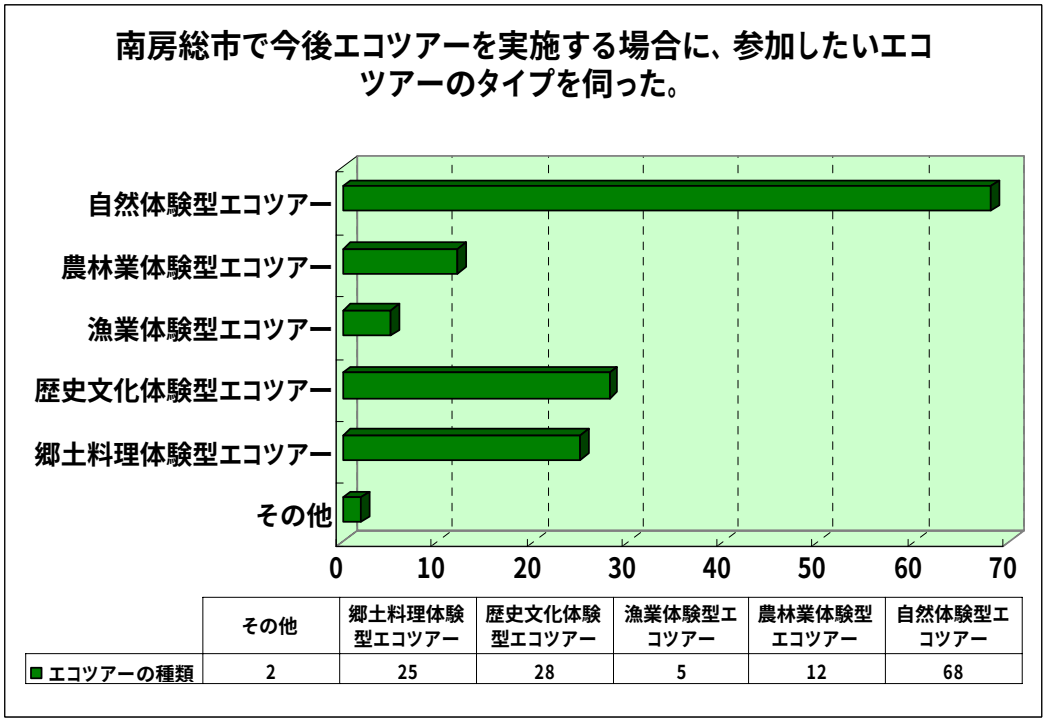


自然体験型エコツアー19 件中 9 件と多く、次いで、農林業体験型エコツアー、歴史文化体験型ツアーと続いた。



参加した都道府県は、茨城県、千葉県、群馬県と関東近郊で開催されるものが多く、知床半島や屋久島などの世界遺産級のエコツアーよりも、初級のエコツアーへの参加が伺えた。

南房総市で今後エコツアーを実施する場合に参加したいエコツアーのタイプについて伺ったところ、下記のとおりとなった。



自然体験型エコツアーが１４０件中６８件と最も多く、次いで、歴史文化体験型エコツアーが２８件、郷土料理体験型エコツアーが２５件と続いた。

南房総の自然環境、野生動植物の観察等を題材としたエコツアーの開催希望の高さが伺えた。

エコツーリズムの取り組みに関する調査